令和7年度全国学力・学習状況調査 菊川東中学校 結果の概要

1 国語・数学・英語の平均正答率について(◎平均を上回る ○ほぼ平均 ▲平均を下回る)

	全国平均 本校平均		領域(問題)別			
国	54. 3	54	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や 使い方
語	34. 3	34			\bigcirc	
数	10 2	53	数と式	図形	関数	データの 活用
学	48.3		\bigcirc			
	平均正答率	平均正答率	「エネルギー」	「粒子」の	「生命」の	「地球」の
理	(全国)	(本校)	の領域	領域	領域	領域
科	2.9	3.2				0

2 学力問題調査の結果に見られた本校生徒の特徴

本校生徒の「○・・・良い表れ」と「▲・・・・改善したい点」

(1) 国語

- ○「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること」(話すこと・聞くこと) 「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」(話すこと・聞くこと) に関する問題の正答率が高いです。
 - →今後の学習場面の中でも、自分の考えを整理し伝え合う場面を設定したり、場面に応じてノートや ICT 機器を活用して表現する活動を取り入れたりするなどの授業づくりを継続します。
- ▲「目的に応じて、集めた資料を整理し、伝えたいことを明確にすること」(書くこと)に関する問題 に課題が見られました。※裏面に問題を掲載します。
 - →資料に書かれた情報を理解する際に、書くことによる整理や ICT 機器を活用した整理を設定 し、理解と同時に伝えたいこと明確にする活動を取り入れていきます。

(2)数学

- ○「【平行四辺形における証明問題】において、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、 証明を評価・改善することができる」(図形)に関する問題の<u>正答率が高い</u>です。
 - →日頃の学習場面において、一通りの解き方にとどまらず、条件を変えて問い直す場面やその問いに対して、周囲と粘り強く取り組む場面を設定しており、今後も継続していきます。
- ▲「数量を文字を用いた式で表すことができる」(数と式)問題に課題が見られました。
 - →文字を具体的な数値に変え、日常生活の場面に当てはめて考え、その上で文字に再度変換する などの学習を取り入れていきます。

(3) 理科

- ○「ガス警報器の設置場面が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知 識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈する」(粒子の領域) に関する問題の正答率が高いです。
- ○「化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分 子のモデルで表すことができる」(粒子の領域)に関する問題の正答率が高いです。
 - →目の前で事象を確認する実験を多く取り入れたり、ICT を活用した事象を確認したりするなど、 具体的に事象を捉えた上で、抽象的な概念につなげる学習の流れを大切にしています。今後も 継続して取り組んでいきます。

生徒質問紙(学校生活について)に見られた本校生徒の特徴 3

○「自分には、よいところがあると思いますか。」

○「将来の夢や目標を持っていますか。」

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」

【自己有用感】 【行きたい(行かせたい)学校 No.1】

【キャリアプランニング能力】

【自己肯定感】

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」【多様性の尊重】 等に、肯定的な回答が多くみられました。

→躍動賞の授与や日常の称揚等を通して、継続して生徒の良いところを認め励ますなど、本校の グランドデザインに示す学校教育目標「自己指導能力を身につけた生徒の育成」にむけた具体 的な取り組みを今後も継続してまいります。

学力問題調査の中で、課題が見られた問題

